

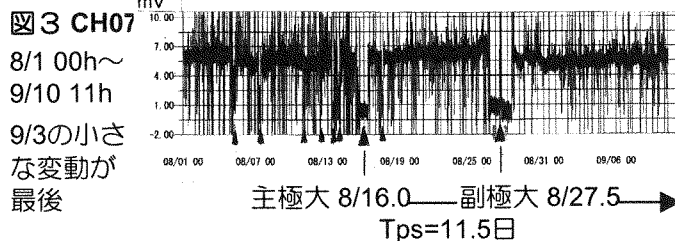
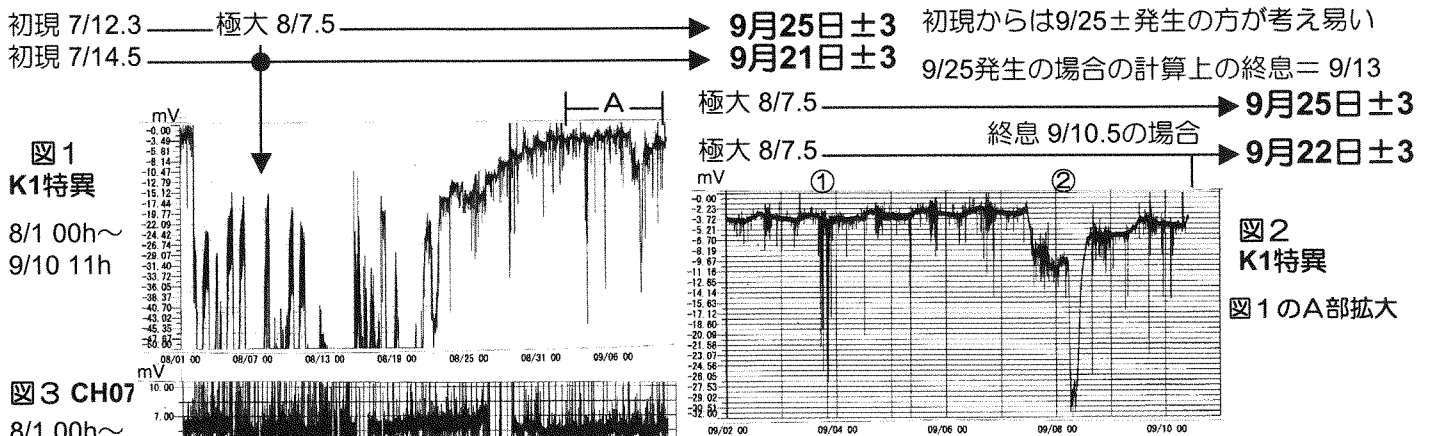
PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.312

2021.09/10 (金曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778続報 K1明確な特異出現 直前特異ではなくまだ前兆期間だった可能性 9月23日±3 発生の可能性に修正 お詫びします

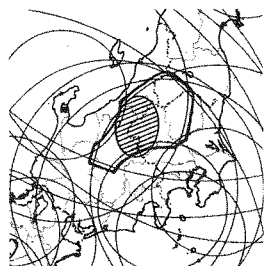


Tmap:Tps=3:1~3.5:1
3:1 9月19日±3
3.3:1 9月23日±3
3.5:1 9月25日±3

可能性と認識した変動です。これを越える大きな特異として②が観測されました。あくまでも①の変動9/3.8が直前特異である場合は、新たに出現した特異変動の可能性が否定できませんでした。②の変動は現われたのが9/7.5で最大変動は9/8.3です。単純にこの関係を初現、極大として計算しますと9/9±が計算できました。しかしその場合の終息9/9午前中には終息しませんでした。本日9/10の午前11時までのデータ(図2)を見ますと、まだ完全に通常基線電圧値に復帰していないように見えます。つまり②の変動は単独の前兆変動ではないことが明らかです。では直前特異を①としていましたが、②の変動が直前特異である可能性はないか?ということが考えられますが、この場合は9/15±発生の可能性となり、他の変動と合いません。残る可能性は①も②もK1の前兆期間であり、前兆変動の終息前である可能性となります。

図3は八ヶ岳のCH07です。前情報で報告のとおり、8/16.0が極大と認識されます。8/27.5中心に8/16.0より長い変動が出現していますが、図3の波形の下部に▲印で示したのは基線から明確に下がった変動です。8/16.0を中心に多数出現しておりますため、あくまでも8/16.0が極大と認識されます。8/27.5中心の変動に極大からの間隔11.5日を加算すると9/8±が出たため、そのような新たな関係も否定できないとも考えました。しかし、過去例が多数ある主極大、副極大型の前兆変動であると再認識しますと、主極大より副極大が緩やかなタイプと認識され、平均Tmap:Tps=3.7:1ではなく3:1近似である可能性が示唆されます。図3の右下にTmap:Tps=3:1~3.5:1の場合の発生推定時期を記しました。9/23±3の可能性が示唆されることとなります。K1の初現も再調査で7/12.3又は7/14.5の可能性が考えられます。

(7/12.3の方が考え易い) この場合K1は9/13頃に静穏化することが示唆されますので、今後の変化を観測し、続報します。9/10±2発生の可能性がなかなか否定できず、当地も予測震源域に極めて近いので、心配でしたが、多くの皆様にもご心配をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。発生日が計算できましたら続報予定。



- ◆ 推定領域：図4太線内領域内・斜線域参考推定領域
斜線参考域=浅間山・白根山等火山近傍領域
- ◆ 推定規模：M8.0±0.3
(近傍火山活動活発化の可能性も有るが不明)
- ◆ 推定時期：9月23日±3日 今後の観測で修正
- ◇ 推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇ 推定発生時刻：複数BT=AM 9:00±2 (CH34BT重視=AM 7:00±3)
または複数BT=PM 6:00±2 (CH34BT重視=PM 6:30±2)

図4 推定領域図